

フレック食品工業株式会社



弁当のおまけとして付く恐竜フィギュア(手前)と卵形の弁当容器(奥)。陶器入りの弁当は「越前焼茶碗弁当」

恐竜 フィギュア 付 き 弁当企画

あさくら(永平寺町) 10月発売

食品製造販売のフレック食品工業(本社永平寺町)が、6種類を用意した。県立諏訪間斎藤眞理夫社長の恐竜博物館(勝山市)の関連会社あさくら(本社同、同社長)は、恐竜フィギュア付き弁当を企画し、10月から販売を始める。本県を代表するブランドのPRに役立つ。

「恐竜弁当」は勝山市の助成を受けた、同市とのコラボ商品。おまけのフィギュアは全長約20センチ、人気のティラノサウル

スやステゴサウルスなど6種類を用意した。県立恐竜博物館(勝山市)の監修を受けた製品で、色つげなど本格的な仕上げになっている。

恐竜の卵をモチーフにした容器入りで、どのフィギュアが入っているかが外装から分らず、開けるときは楽しみも。弁当の中身については未定だが、地元食材をメインに用い、恐竜から連想し鶏飯

などを検討しているという。同博物館やえちぜん鉄道の勝山駅などで販売する予定。

同時に、容器に越前焼の抹茶茶碗を使った「越前焼茶碗弁当」も開発した。容器は色や形が一つ一つ異なり、温かな風合いを醸している。弁当の中身はカニや甘エビ入り、焼き鯖ずしを丹風にする。価格は恐竜弁当、越前焼茶碗弁当とも1500円。今後、都内の百貨店や駅弁への展開も目指しており、斎藤社長は「福井を代表するブランド、文化を食にのせて全国に発信したい」と意気込んでいる。